

上野

国焼茶陶「上野焼」 伝統と洗練の歴史

四百年以上の歴史を誇る「上野焼」。
上野の郷には二十軒ほどの窯元が点在しています。
関ヶ原の戦いで武勲を認められた細川忠興（三斎）が豊前小倉藩主となった際、
福智山の麓に窯を築かせました。
忠興公は、千利休の薫陶を受け、茶の奥義を極めた大名茶人。
以来、腕利きの陶工たちが心技を注ぎ、
美や粋、侘び寂びとは何かを知る藩主を唸らせる
格調高いやきものを手がけてきました。
その後、徳川將軍家茶道指南役であった日本三大茶人の一人、
小堀遠州ゆかりの「遠州七窯」の一つに数えられています。

今では、多彩な釉薬を用いた発色の妙味や
窯と作者ごとの個性を生かした表現が特徴となっている上野焼。
それぞれの窯元が陶技を磨きながら、生活に彩を添える器を生み出しています。
「春の陶器祭り」、「秋の窯開き」をはじめとした催しや企画は陶の里の風物詩。
陶郷上野で、伝統と洗練の歴史が紡がれています。

窯元散策MAP

